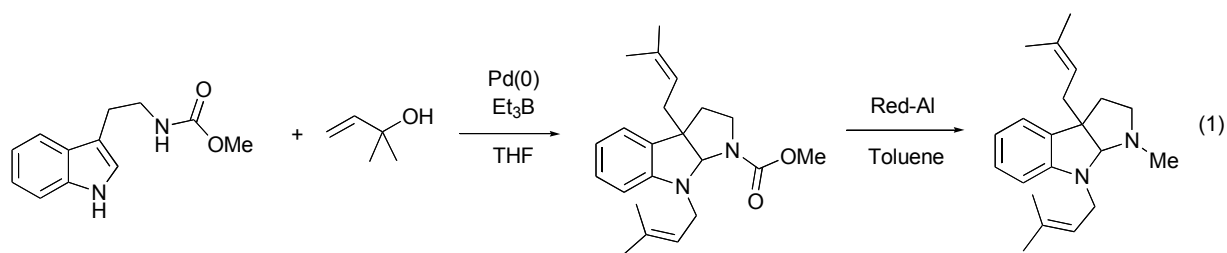


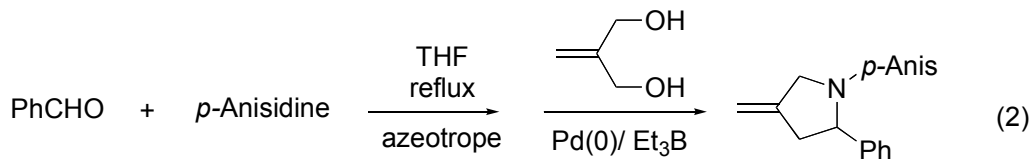
生理活性物質創製を目的とした新形式アリル化反応の開発 Efficient Synthesis of Physiologically Active Molecules via Amphiphilic Allylation with Allylic Alcohols

山口祐未、遠山佳津実、木村正成（長崎大学院生産科学）
Yumi Yamaguchi, Katsumi Tohyama, Masanari Kimura
(Graduate School of Material and Science, Nagasaki University)

インドールアルカロイドは医薬品、染料、植物ホルモンをはじめ、様々な生理活性を示す有用含窒素複素環化合物である。当研究室では、パラジウム触媒及びトリエチルホウ素存在下、トリプタミン誘導体とアリルアルコールを反応させると窒素原子上ではなく、3位炭素上への親電子的アリル化反応が進行することを見出した。アリル化生成物を還元することで Debromoflustramine B を僅か2工程で合成することができた (式1)。



同条件下、2-メチレンプロパンジオールとアルドイミンを反応すると、ピロリジン環が合成できた。本法は含窒素複素環化合物の新規合成法として有用である¹⁾(式2)。



<参考文献>

(1) M. Kimura, T. Tamaki, M. Nakata, K. Tohyama, Y. Tamaru, *Angew. Chem. Int. Ed.* **2008**, *47*, 5803-5805.

発表者紹介

氏名 山口 祐未 (やまぐち ゆみ)
所属 長崎大学大学院生産科学研究科 物質工学専攻
学年 M1
研究室 生物分子工学講座 生物有機化学研究室
木村研究室
E-mail masanari@nagasaki-u.ac.jp

